

課題

教育分野における 図書・教材のバリアフリー



事業のねらい

①読書バリアフリーに関する過去の優れた実践から、今後必要な連携のあり方を検討

- これまでの読書バリアフリー、図書・教材のアクセシビリティ保障に関連した先進的なグッドプラクティス（GP）を集約・分析・整理し、バリアフリー図書の製作・提供の方法、それらの促進に向けた連携方法を検討

②一般への情報公開

- ①で得られた知見を広く啓発するため、公開シンポジウムやウェブサイトで情報公開



<https://accessreading.org/conso/>

© 学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム

実施内容

- 障害のある児童生徒・学生を対象とした読書バリアフリー推進に関するグッドプラクティスを収集・分析・整理
- 先進的な取り組みを行っている学校図書館、公共図書館等をヒアリング調査(6団体)
- 上記結果を整理し、ウェブサイト等で公開

①関係者会議の開催



- 全4回オンライン開催
- 読書バリアフリーに関する話題提供や、GP分析、現場からのFAQ検討、必要な連携のあり方について議論

②オンライン公開シンポジウムの開催



- 見逃し配信希望含む455名申込、当日245名参加、見逃し配信261再生
- グッドプラクティス事例紹介、パネリストによる話題提供等実施

③ウェブサイトの充実



- グッドプラクティス事例追加
- 「学校の先生ができること」フローチャート図の追加
- 現場からいただいたFAQ追加
- アンケート結果続報追加

成果

- 読書バリアフリー促進に向けた連携方法の検討**
- GPの収集・分析・整理や、学校図書館に関する追加調査・追加分析から、バリアフリー図書の製作・提供の方法、それらの促進に向けたより効果的な連携方法を検討

- 読書バリアフリーの取り組みに関する情報の集約と公開**

- 教育現場での読書バリアフリーに関する具体的な実践報告を公開シンポジウムや見逃し配信により一般公開。特設ウェブサイトも内容充実させ、追加のGP事例紹介、教育現場での図書・資料の複製・翻案・共有に関する法令を遵守した取り組み方法に関するFAQやフローチャートを作成・公開し、著作権法を遵守した形で、関係者が適切にアクセシブルな資料を制作し、共有する方法を周知

図書・資料や教材等のアクセシビリティ保障を拡大する具体的な方法を一般公開

- ✓ 障害等のある児童生徒・学生の、より広範な図書や資料へのアクセス拡大に期待

課題

○2019年「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」以後、様々な体制整備が進む
○障害者の情報リテラシーを前提とするが、ICT活用のための障害者への支援は手薄



事業のねらい

障害者の読書とテクノロジーの課題解決に向けて取り組む「読書バリアフリーコンソーシアム テクノロジーハブ」を結成する。障害者の読書とテクノロジーに関する議論を交わし、ICTあるいはテクノロジーが障害者の道具となるために必要な、個別のニーズ、メディア、テクノロジーに関するアセスメントやフィッティング、利用支援の情報拠点となることを目指す。

実施内容

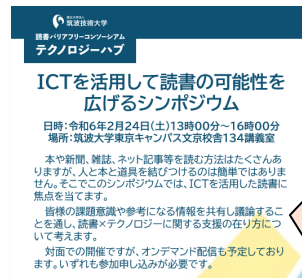
コンソーシアムと関係者協議会を結成し、取組内容に関するアンケート調査、シンポジウム開催、ウェブサイトの構築を行った。

①図書館対象のアンケート実施



国立国会図書館の視覚障害者等用データサービス登録図書館を対象に各種リソースの活用、情報機器、メディア、ICTに係る情報入手や研修の機会等を調査

②関係者協議会、シンポジウムの開催



- ・開会の挨拶(文部科学省)
- ・アンケート調査結果の報告 (宮城委員)
- ・「科学へジャンプ」の実践 (小林委員)
- ・読書×テクノロジーに関する支援事例(氏間委員)
- ・指定討論と全体討論 (清田委員、野口委員)

③ウェブサイトの構築



コンテンツ概要:
読書ガイド(テクノロジー活用)
本を探す(アクセシブルな本)
相談する
支援者の方へ

成果

○アンケート結果

障害者のICT利用支援に関する担当職員・予算額・情報入手・スキル向上機会等の現状・課題が明らかになった。



実施時期:
2023年12月～
2024年1月
回答数:187館
(回収率57.5%)

○関係者による議論

関係者協議会(2回)、図書館・教育・福祉・障害者ICTサポートセンター関係者対象のシンポジウムを開催。



実施日:
2024年2月24日
参加者数:
419人(対面、
オンデマンド)

○シンポジウム参加者数・内訳

所属(複数回答有)	参加者数
図書館関係者	223人
教育関係	175人
福祉関係	29人
ICTサポート関係	26人
その他	30人



読書バリアフリーコンソーシアム
テクノロジーハブ